

【ポスター発表】

「流動社会」における生活最低限の研究  
— 「合意に基づく」基準生計費策定プロジェクト—

○ 埼玉県立大学 堅田 香諸里 (5814)

岩永 理恵 (神奈川県立保健福祉大学・4988)

キーワード3つ：生活最低限・グループディスカッション・基礎的生活

## 1. 研究目的

グローバル化が進み人びとの生活が不安定化したいわば「流動社会」にあって、格差や貧困、社会的排除が社会問題化している。こうした状況下で従来の福祉国家による生活保障のしくみの欠陥が認識され、さらには国家が最低限度の生活を保障することの正当性に対する批判や疑問を生ぜしめている。変容する社会に対応し、従来の福祉国家の最低限にかわる新たな生活最低限を検討する必要がある、その方法論の構築と洗練が急務である。本研究は、生活最低限の理論的枠組みを検討しながら、一般の人びとの協議によって基準生計費算出に取り組むものであり、今回は、この『合意にもとづく』アプローチによる基準生計費策定プロジェクトの方法と結果について報告するものである。

## 2. 研究の視点および方法

『合意にもとづく』アプローチによる基準生計費策定プロジェクトの特徴は、ある架空の個人の「事例（モデル）」を定め、それに沿って行われる、「事例による話し合い方式」をとることにある。たとえば、働き盛りの女性のグループでは、「Bさん（32歳）、一人暮らし、賃貸住宅居住」というような、架空の個人を設定し、その人にとって最低必要な「基礎的生活」の範囲について話し合う。参加者で話し合った結果は、研究者によって補強され、価格に置き換えられ、基準生計費を決める、という手順である。

具体的には、「合意にもとづく」基準生計費の策定を最初に試みた Bradshaw (2008) 及び、日本で先行して実施された岩田他 (2011) を参照して、次の7段階を経て基準生計費を算出する。第1、3、5、7段階は、市民からなるグループを構成し議論する段階であり、第2、4、6段階は研究者のみで実施する作業段階である。

第1段階 導入グループ「グループごとに最低限必要なものを構想」

第2段階 「研究者が構想をチェック」

第3段階 事例話し合いグループ「グループごとに最低限必要なもののリストを協議」

第4段階 「研究者による価格表の作成や生計費の計算、既存データによる検証」

第5段階 再確認グループ「各グループでリストを協議し合意する」

第6段階 「最終的な基準生計費算出」

第7段階 最終確認グループ「各グループで最終的な協議し合意する」

### 3. 倫理的配慮

グループディスカッションの参加者には、研究の目的など概要とともに、個人情報の保護、研究等により生じる個人への不利益及び危険性の有無とそれに対処する方法などについて、文書と口頭で説明し同意を得た。なお、本調査は、神奈川県立保健福祉大学研究倫理審査委員会の承認（判定結果通知番号 22-043）を得て実施したものである。

### 4. 研究結果

今回、われわれは、「32歳、未婚、埼玉の浦和で単身、賃貸住宅で暮らしている」男女別のグループを運営し、それぞれの「最低限必要なもの」とそれにもとづく基準生計費算出を試みた。前節に述べた作業段階のうち、第1・2段階については岩田他（2011）に依拠し、第3段階から第7段階までを実施した。

研究結果は、男女それぞれについて、A3版で4～5頁に及ぶ「最低限必要なもの」のリスト、このうち食費については献立表と食材の計算リストにまとめた。このプロジェクトの特徴は、必要なものを具体的に一つひとつグループディスカッションにおいて検討し決定していくことにあり、基準生計費の策定結果については、なによりその必要なものリストとともに提示しなければならないと考える。そのため、策定結果の詳細は資料とともに当日報告したい。

### 5. 考察

最後に、『合意にもとづく』アプローチの問題や課題をまとめる。プロジェクトの一環として、グループディスカッション参加者の感想を聞く機会を設けた。参加者の率直な感想も踏まえ、プロジェクトを実施して得られた反省点をまとめる。

#### 【参考文献】

Bradshaw, J. et al. A minimum income standard for Britain: What people think, Joseph Rowntree Foundation, 2008.

岩田正美、阿部彩、岩永理恵、卯月由佳、重川純子、山田篤裕（2011）「最低所得基準（Minimum income standard:MIS）を用いた最低生活水準の推計（勤労世代単身男女、子ども）厚生労働科学研究費補助金政策科学総合研究事業「貧困・格差の実態と貧困政策の効果に関する研究」平成22年度総括研究報告書（別冊1）